

# 上里遺跡発掘調査現地説明会資料

所在地： 京都市西京区上里南ノ町、長岡京市井ノ内北裏

調査期間： 2006年6月12日～継続中

調査面積： 940㎡

## はじめに

この調査は、2002年度から継続して行っている道路（伏見向日町線）新設工事にもなうものです。

調査では、まず長岡京期の道路・建物などを発見しました。その下の層から、弥生時代の墓などを発見し、さらに、その下から縄文時代の集落や墓を発見しました。

## 調査の概要

縄文時代の遺構は調査区の東半分で見つけました。検出した遺構は、竪穴住居跡・柱跡・墓・土壇などです。遺構の年代は、出土した土器から縄文時代晩期中頃(今から約3,000年前)とみられます。

竪穴住居跡は、6棟見つけました。住居跡1は、円形で直径約4m前後（床面積12.5㎡）、深さ約0.6m。床の中央には、炉が設けられています。壁際には、柱がめぐります。また、この住居跡内からは、石皿や磨（すり）石が出土しました。住居跡2は、方形と考えられますが、東側は検出できませんでした。住居跡3は、不定形で柱跡が認められます。住居跡4は、楕円形で南北が5mあり、床面積は約14㎡あります。住居跡5はほとんど削平されていましたが、柱跡を円弧状に検出したことから住居跡と考えました。住居跡6は、現在調査中です。

調査区の東端北側で3基、南側で2基の土器棺墓を発見しました。墓は、径0.5m前後の穴の中に深鉢（甕）を斜めに据え、深鉢（甕）の破片や鉢で蓋をしていました。これらの土器棺墓は、子供を埋葬したものとみられます。土壇墓は4基見つけましたが、規模や方向はばらつきがあります。土壇墓1・3・4からは土器が出土しています。

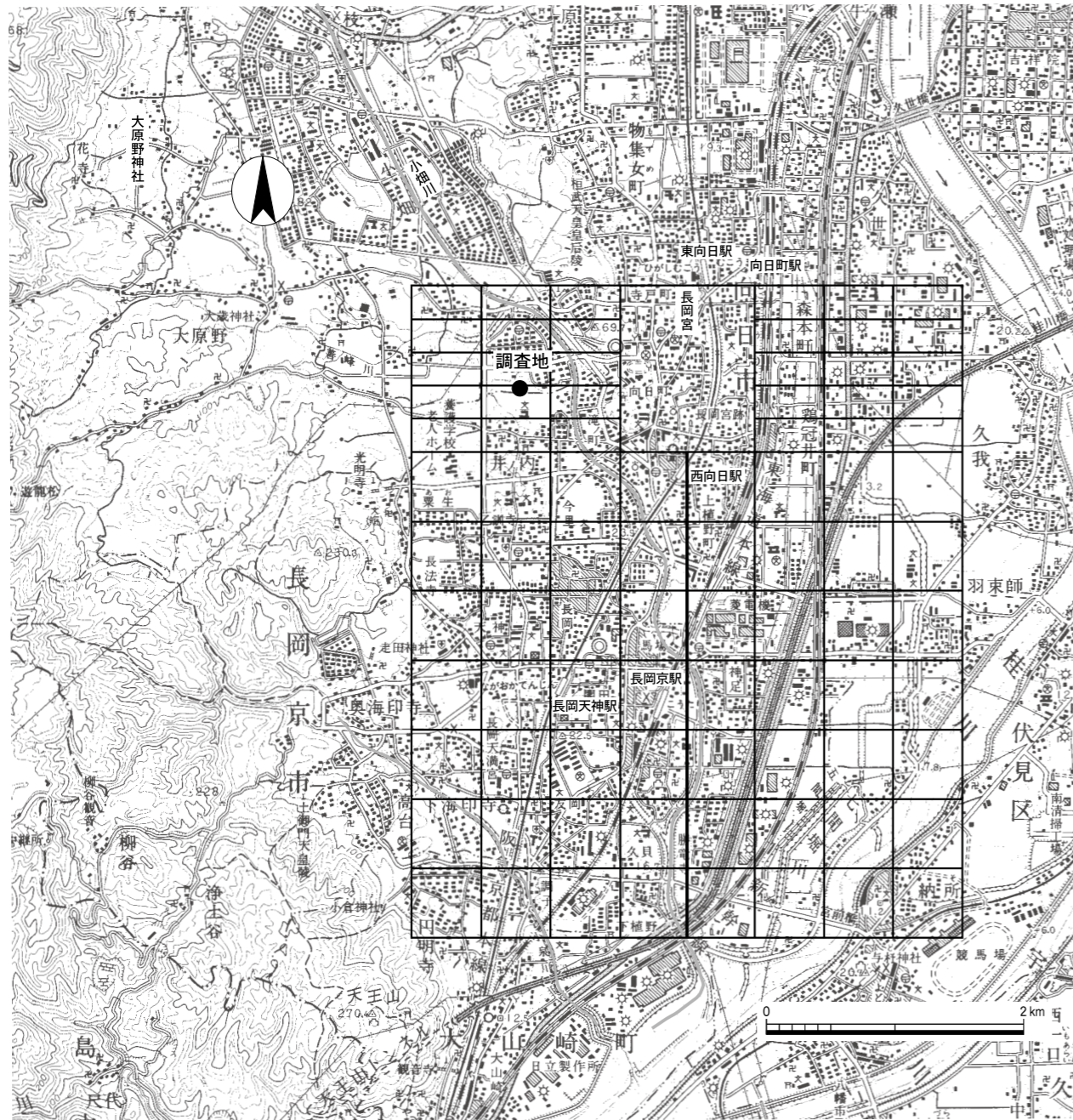
## 出土遺物

出土した縄文土器は、粗製の深鉢（甕）がほとんどですが、表面を磨いた精製のものも少量ですが出土しています。さらに、朱を塗った土器も数片出土しています。また、石製品には石斧、石鏃、石棒、石剣あるいは石刀、砥石、磨石、石皿、敲き石あるいは凹石などがあります。また、石器を作るさいに必要な石片を取るための石核や石屑が多数出土することから、集落の中で石器を作っていたことがわかりました。

## まとめ

この集落は、小畑川の河岸段丘に営まれていました。これまで、乙訓地域では縄文時代の住居跡が散見されていましたが、今回の調査では、まとめて発見することができました。しかも、住居跡1は極めて残存状況が良く、発見例が少ない縄文時代晩期の住居のようすを明らかにすることができたことは大きな成果です。さらに、朱を塗った土器の発見は、他地域との交流を示しています。

なお、住居や墓が同時期にあったかどうかは、出土した土器などを今後さらに詳しく調べる必要があります。



2007年2月24日(土曜日)

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

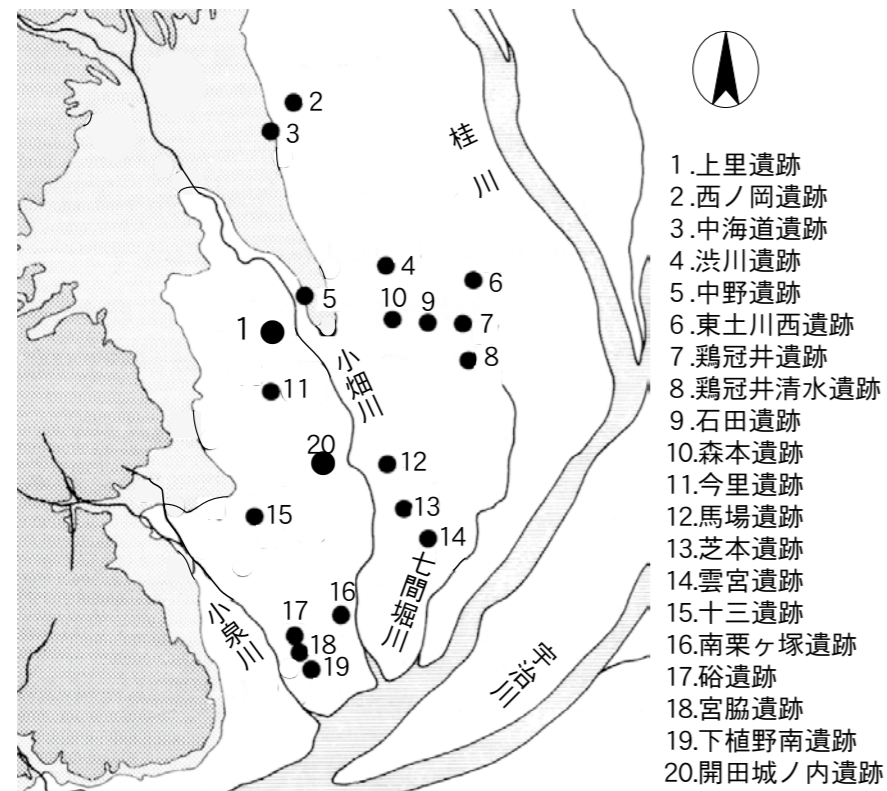


図1 乙訓の縄文時代晩期の遺跡分布図 (1/100,000)  
 (「京都盆地の縄文時代遺跡分布図」『先史時代の北白川』の一部を編集)

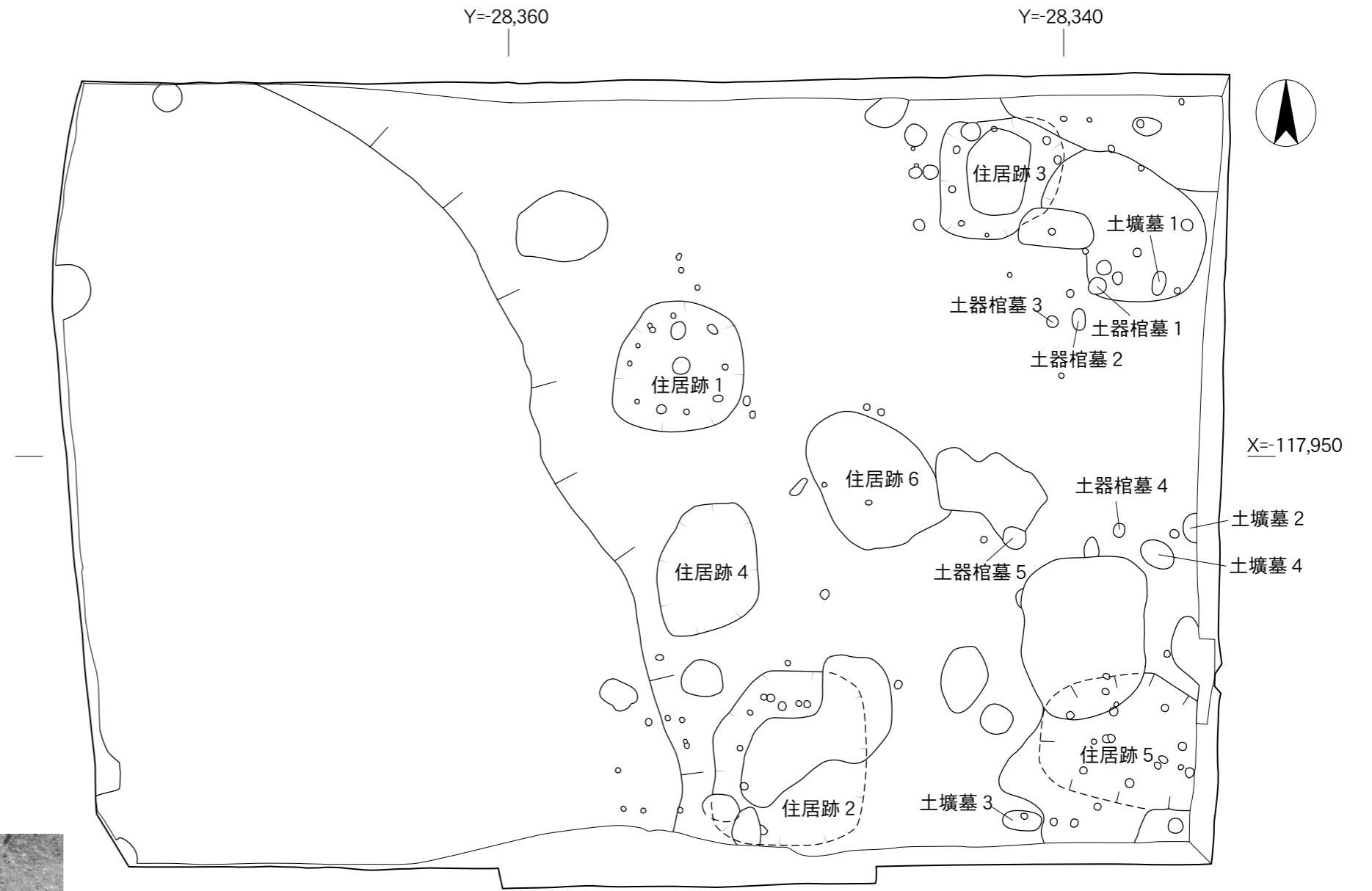


図2 縄文時代晩期遺構配置図 (1 : 200)

0 15m

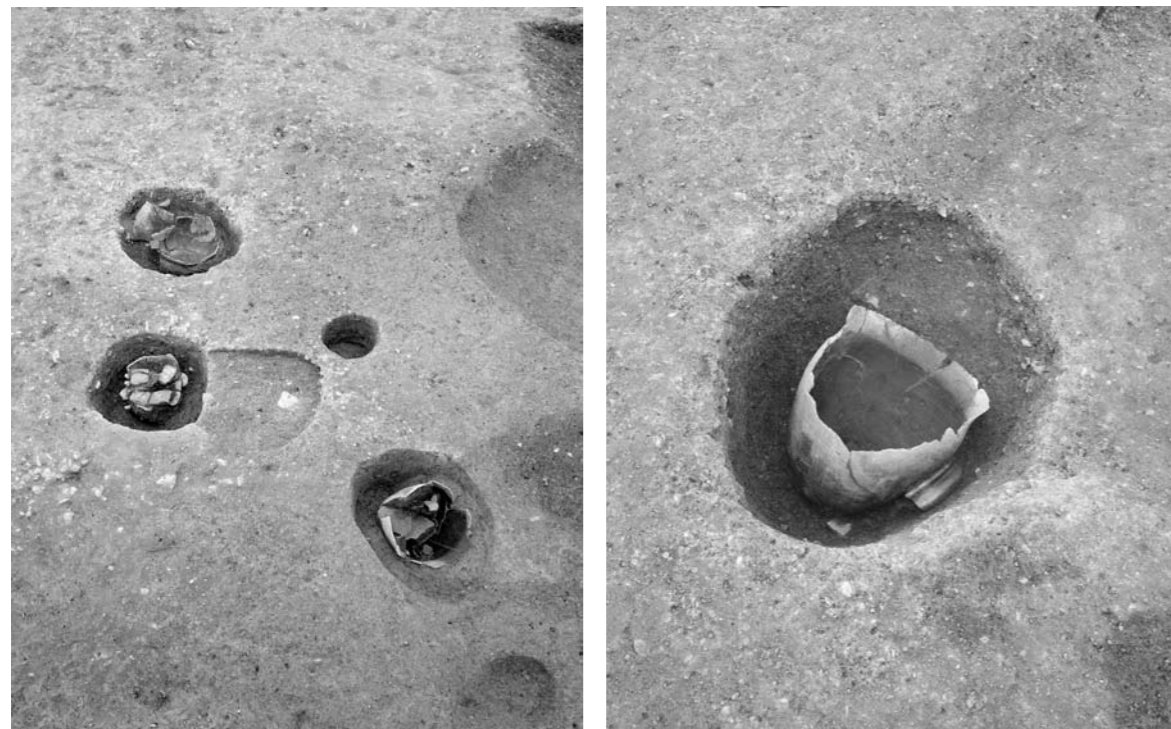


写真 縄文時代晩期の土器棺墓



写真 調査地全景 (西より)